学校運営協議会　会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第８条第１項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

１　会 議 名　　令和５年度吉城高等学校　学校運営協議会　（第２回）

２　開催日時　　令和５年１０月１２日（木）１５：３５～１６：３０
　　＊１４：３０～２年理数科「理数探究」授業参観

３　開催場所　　吉城高等学校　会議室

４　参 加 者　　会　　長　　川上 佳洋　　宇宙まるごと創生塾飛騨アカデミー理事長
（敬称略）　　委　　員　　竹林千恵子　　前本校育友会女性部長
　　柴田 駿一　　本校同窓会会長
　　牧田 美奈　　本校育友会女性部長
　　オブザーバー　布俣 正也　　岐阜県議会議員

　　学 校 側　　野々山 伸一　　校長
　　渡辺 圭子　　教頭
　　田本 里美　　事務長
　　小澤 耕　　教務主任
　　河野 和代　　生徒指導主事
　　井田 和実　　進路指導主事
　　桐谷 直嗣　　特別活動部長
　　近藤 恵子　　キャリア推進部長
　　野村 剛志　　理数科主任

５　会議の概要（協議事項）
（１）　授業見学「理数科　理数探究」を終えて（御意見）
意　見１：大変感動した。春に学校長から吉城高校の３つのポリシーとして伺った「伝える力、見つける力、解決する力」の内容について、まさに生徒達が授業で実践できていた。

意　見２：自分たちの身近な題材を使ってそれをどんどん掘り下げていく。失敗して改善しトライアンドエラーを繰り返して真理を求めていく。それはすごく社会活動の中でも大事なことだと思っているのですごく良い授業だと思った。

意　見３：どのグループの生徒も課題に添って調べ、思いを発表できていて、率直に吉城高校の生徒はすごいと思った。課題から次の課題に向かう姿勢がのびのびと発表されていて、それが将来につながる。社会人になった際に、素晴らしい社会人になっていくのだという期待も持つことが出来、良い姿を見させてもらった。

意　見４：理数科についてはカムランドの見学等々ご苦労様でした。１１月３日には東京大学宇宙線研究所のスーパーカミオカンデが一般公開するので、機会があれば来て欲しい。東大の先生方も何かあれば喜んで協力したいとのこと。

（２）　学校評価と各分掌の取組について
※各分掌長より前期の取組と学校評価の分析、後期の実践について説明。

意　見１：ルーブリックの検討はどの程度進んでいるか。学校内でのコンセンサスも含め現在の状況を差し支えのない程度に教えてほしい。

回　　答：ルーブリックについては、どのようにしていくか考慮中である。教科に落とし込んでいくのが理想的だが、いろいろな科目もあり、生徒自身がどのあたりまでできるようになったのかを一番細やかに丁寧に見るには、ルーブリックの幅広の部分で測るよりも、本人が受けている授業の自己評価、授業評価で測る方が生徒には分かりやすいのではないかと考えている。ルーブリックは総合的な探究の時間がもとになって、学習していく中で全体的に自分がどう伸びたかを大きな意味で捉えるには非常に良いが、教科で具体的にやっていることに関しては使いづらい部分もある。もう少し研究して来年度にどのような形かでやってみて、その上で、改善を図っていくようにしたい。大枠のやりとりはしたが、校内関係各所にまだ細かく聞いていないので、調整したい。

意　見２：自殺率が高かった報道がなされる中で、不登校や、自殺への危険についての現状について知りたい。また生徒指導に関する面での生徒心得の変更について具体的に生徒会から相談があったかについても教えてほしい。

回　　答：不登校や心の問題で悩む生徒は確実に多くなってきている。本校においても担任への相談を始めとしてアンケートなどでも不安を訴える生徒や、スクールカウンセリングを希望する生徒がいる。月に２時間の枠では足りずその他の枠でお願いすることも多くある。担任や関係職員だけではなくスクールカウンセラーなどの外部機関につなげながら対応している。また、自殺の問題はＳＯＳの出し方についての講演を行っている。初期段階で苦しさを信頼できる誰かに話すことの大切さを訴え、細心の注意を払っている。生徒指導面における生徒心得の変更については、生徒から声が上がってきていることは今のところない。

意　見３：不登校などの生徒も増えていることは私も同じ世代を持つ親なので気になる。小さいうちは姿でのいじめがあるが、高校生は携帯もあり、見えなくて見抜けないことがある。保護者も不安ばかりで分からないところもあると思うので外部の専門家に教えてもらえれば少し楽になるように思う。

回　　答：全国的な現象であるかもしれないが、コロナの影響はボディブローのようにある。コロナ前は普通に日常的にできていたことが、コロナ後、ある生徒さんにとっては大変なストレスであったり、緊張を強いられることになったりする。教務として制度上のことは説明しながらも、本当にその子にとっての一番いい選択は何かを寄り添いながらサポートしていく声かけを行っている。

意　見４：昨年進学・就職とてもよい結果が出ていたが、半期終わったところで、ミスマッチなどの進路変更やドロップアウトはないか教えてほしい。

回　　答：毎年残念ながらゼロではない。就職も進学も最終の決定先を決める前には、就職は２年生からガイダンスに行ったり、事前に職場見学をさせていただいたり、進学も複数の学校を見に行ったりしているが、やはり入ってから違う、勉強について行けない、という生徒も中にはいる。ほとんどの生徒は卒業後来てくれたときに、すごく楽しい、充実していると言ってくれている。

意　見５：文書が保護者に届いていないという否定的意見もあったが。

意　見６：保護者からの返答が手書きで必要なものは配付で良いが、そうでないものはメールで直接保護者に流すなど、紙でなくても良いものを電子化していけば、親の隙間時間にチェックすることができるのではないか。（一同了承。）

意　見７：学校評価に対する分析の中に、「部活動の管理体制について確認をしていかねばならない」とあったが。

回　　答：保護者のアンケートで否定的意見が２番目に増えた項目。謙虚に受け止め、現状把握に動いていく。

意　見８：吉城高校は自分の目線からいっても、良い雰囲気で先生と生徒と保護者が関わり、本当によく機能していると思っている。県の創生総合戦略の中のキーワードにふるさと教育とか、課題解決研究とか、探究とかがあるが、吉城高校は、地域との連携が機能していてすばらしい成果をあげていると感じている。

意　見９：文化祭が９月１日、２日の両日に行われた。見せてもらったが、久々の一般公開で、生徒の気合いの入れ方は相当だった。ポテンシャルが高く感動した。生徒達にやりがいを見いだしていただき、感謝している。

意　見10：アンケートで働き方改革の評価が低い。生徒や保護者からも注目していることが分かる。今後もより気をつけてもらわなければと思っている。また、今日の意見を育友会の方々にも間接的に伝えてそれを再評価していくことは今後につながるのではないかと思うので検討いただきたい。

意　見11：学校運営協議会は保護者とのつなぎの意味を持っている大切な機関であり、岐阜県の教育界のあり方も含めて、まだ改善の余地はあると考えている。委員として諸課題に対し先生方と一緒に考えて行かねばならないと思っている。

６　会議のまとめ

第２回学校運営協議会において、各分掌長から前期の取組と学校評価分析、及び後期の取組予定について説明した。参加の委員から多くの意見を得て、活発な意見交流の場となった。ここで得られたものを本校教職員で共有し、それを活かしてなお一層、生徒がいきいきと活動でき、夢を実現することができる学校となるよう体制を整えていきたい。第３回では、YCKプロジェクトの報告会も参観していただく予定である。